

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号:3 事業名:セーフティドライブ・チャレンジ作戦事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
<p>小澤アドバイザー</p> <p>村上アドバイザー</p> <p>小口アドバイザー</p>	<p>・これまで参加したことのない免許保有者へどう周知しているのか。企業や団体以外の一般の方が参加できる体制づくりが必要と考える。</p> <p>・もっと女性が参加できる体制が必要と考える。</p> <p>・何回かチャレンジを達成したら卒業という考え方はないか。違う人がやるからこそ意味があると考え。</p> <p>・他県で高校生のカテゴリーを設けているところはあるのか。</p> <p>・参加者の5人1組を3人1組などとした場合、予算や所要時間は大きく変わるのか。企業は5人でもよいかもしれないが、個人で5人集めるのは難しいと思う。</p> <p>・申し込む際は3,150円を振り込まないとエントリーにならないのか。</p> <p>・企業で参加する場合の経費は企業で負担していると考えられるが確認できるか。公務員はどうか。</p>	<p>課長 若尾哲夫</p> <p>課長補佐 河合秀樹</p>	<p>・企業などへ所属している人がグループで参加する形態が多い状況ではあるが、個人に対しては市町村を通じて呼びかけている。職場で5人集めるのが難しい場合を考えてファミリーの部を設け、個人でも参加しやすいようにしている。</p> <p>・女性は子育て中で在宅になっている場合や、従業員の割合の関係で男性に比べ参加者が少ないと考えられる。</p> <p>・5人1組でやることで自覚が高まるということもある。達成後も引き続き無事故を継続できるとは限らないので、続けていく意味はあると考える。</p> <p>・山梨県のみと思われる。</p> <p>・すべてを3人1組などとした場合は、発送等の予算や事務量は増えると考えられる。</p> <p>・申込書と振込がそろわないと申込みにはならない。</p> <p>・正式な数はわからないが、大手企業などでは会社の経費で出していると聞いている。公務員の場合、公費では出せないなので、親睦会費などを活用し、個人負担で参加している。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>・他県で実施しているところはすべて県の直営か。他県状況の一覧にない25の自治体は実施していないということか。</p> <p>・成果指標によらない成果で参加者と非参加者の事故率と違反率を記載しているが、違反率にはさほど差がなく、チャレンジに参加しても成果がないという考え方もできるがいかがか。</p> <p>・同じ違反でもチャレンジの参加者は軽微な違反であり、重大事故につながる違反は少ないのではないかと推測される。</p> <p>・協賛をいただいているのはH25からということでしょうか。それまでは協賛はもらっていなかったのか。</p> <p>・賞品はどのような形で渡しているか。</p> <p>・抽選会への参加者はどのくらいの数か。</p> <p>・抽選会の賞品で民間企業提供のものは企業名を出して渡しているのか。</p> <p>・参加者のレポート率や新規の参加者の統計をとっているか。新規の参加を拡大していくことを目標にする必要があると考えるがどうか。</p>	<p>課長補佐 河合秀樹</p> <p>主任 網倉俊和</p> <p>課長 若尾哲夫</p> <p>課長補佐 河合秀樹</p> <p>課長 若尾哲夫</p>	<p>・一部は交通安全団体が実施しているところもあると聞いている。一覧にない自治体は実施していない。</p> <p>・事業の目的は事故を起こさないこと。違反は事故につながるという観点から、違反率の統計も出している。</p> <p>・事業の見直しを行ったH23頃からと思われる。それまでは予算が多くあったので、賞品を用意できていたと考えられる。</p> <p>・達成チームに抽選券を送付し、小瀬武道館で開催する抽選会へ来場された方の中から抽選で当たるような形になっている。</p> <p>・抽選会への参加者は5～600人程度だが、代理での抽選も可としている。</p> <p>・企業名を出して渡している。</p> <p>・正確な統計はとっていないが、レポートされている方が多いと思われる。同じ企業でも新採用や職員の入れ替わりがあるのでレポートでも意味はあると考える。</p>